

授業科目

在宅看護学演習

担当教員名 宇田 優子、稲垣 千文、小山 歌子、和田 直子、杉本 洋 他	対象学年	3	対象学科	看護
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○	◎	◎

授業の概要

2年後期の在宅看護学概論を基に、模擬事例を使って在宅看護過程の展開と訪問技術を、個人・グループワーク、演習を通して学ぶ。

授業の目的

在宅看護の役割は地域で療養する人とその家族の健康生活への支援であり、関係職種と連携協力しながら看護独自の機能を果たしていくことである。在宅看護学演習では、日常生活支援と医療処置の必要な療養者と家族への看護について理解し、模擬事例をとおして在宅看護の主な方法である訪問看護について習得する。

学習目標

1. 療養者と家族が安心して生活するための環境について説明できる
2. セルフケア能力と家族の条件を考慮した日常生活支援技術を模擬事例で計画作成できる
3. 医療処置を必要とする療養者と家族の看護について説明できる
4. 在宅酸素機器の取り扱いができる
5. 在宅看護過程の特徴を列記できる
6. 訪問看護の方法や留意点について列記できる
7. 初回訪問を想定した場面で適切に情報収集できる

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	在宅看護過程、演習の進め方	講義	宇田 優子 他
2	事例展開(1)	演習	宇田 優子 他
3~7	事例展開(2)~(6)	個人ワーク・グループワーク	宇田 優子 他
8・9	医療処置(在宅酸素療法・陽圧人工呼吸器)を必要とする療養者と家族への支援	講義・演習	稲垣 千文 他
10・11	医療処置を必要とする療養者と家族への支援とコミュニケーション技術	講義・演習	稲垣 千文 他
12・13	技術演習(訪問カバンの取り扱い、血圧測定)と初回訪問場面	S Pによる技術実習	宇田 優子 他
14・15	事例展開(7)	発表・全体討議	宇田 優子 他
	*内容の進め方は変更する場合がある		

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	在宅看護論	石垣和子、上野まり	南江堂	2014年	2,600円+税	在宅看護学概論の教科書と同じ
	写真でわかる訪問看護	押川真喜子	インターメディカ		2,500円+税	在宅看護学概論の教科書と同じ
参考書						
その他の資料						

評価方法

提出課題 70%程度
学習態度 10%程度

レポート 20%程度

履修上の留意点

2年次後期「在宅看護学概論」「保健福祉制度論」を基盤に発展させる科目ですので、各自再学習して履修に臨むこと。外部講師、SPIによる演習も行つるので真摯な態度で学習に臨むこと。一般家庭への訪問マナー、正座、挨拶の仕方は在宅看護では重要な要素です。自己学習して演習に臨んで下さい。

オフィスアワー・連絡先

k 5 0 5 研究室。
実習指導等で不在が多いため、来室時はメール等で予約してから来室して下さい。

yuko-uda@nuhw.ac.jp
inagaki@nuhw.ac.jp